



手づくり支援プロジェクト

～手づくりの器を直接被災地に届けよう～

第11回支援活動の記録 2016年3月12、13日 (宮城県亘理町)



これまでの活動実績 **手づくりの器、約1万7000個を提供！**

- 2011年7月 山田町(4000個を提供)
- 2011年12月 大槌町/釜石市(2700個を提供)
- 2012年7月 陸前高田市(3000個を販売、全売上を寄付)
- 2012年12月 気仙沼市(1200個を販売、全売上を寄付)
- 2013年6月 東松島市(1100個を販売、全売上を寄付)
- 2013年12月 石巻市(600個を販売、全売上を寄付)
- 2014年3月 石巻市(700個を販売、全売上を寄付)
- 2014年7月 南三陸町(600個を販売、全売上を寄付)
- 2015年2月 名取市(1500個を提供、全売上を寄付)
- 2015年9月 七ヶ浜町(700個を提供、全売上を寄付)
- 2016年3月 亘理町(650個を提供、全売上を寄付)

募金総額 : 5,348,057円
被災地への寄附金 : 2,203,060円(チャリティー陶器市の全売上)

手づくり支援プロジェクトとは

私たちは震災直後から東北の被災地で栃木の名産である**益子焼などを提供する陶器市イベントを開催**してきました。避難所で多くの方々がサランラップを敷いた発泡スチロールの食器で食事をしている姿をTVでもよく見たと思います。私たちの職場でも震災後しばらくは発泡スチロールの器を毎日洗いながら再利用し、日に日に変形劣化してゆく容器で、冷たい味気ない食事をしていました。被災地で辛さとは比べようになりませんが、自分たちでさえこのような辛さを感じていました。

その後、徐々に仮設住宅ができ、避難所から仮設住宅に入居が始まりましたが、仮設住宅には基本の食器のset(飯椀、湯呑、小皿など)はありますが、数や種類は少なく、すべて量産品の画一的なもので、まるで病院の食器のように感じました。

栃木にいる私たちが地元東北の為に何ができるだろう、といういろいろ考えましたが、栃木も益子や芳賀など多くの被害があり、友人に被害を受けた益子の陶芸家も多くいたこともあり、栃木と東北を両方支援できたらと、社内、関連メンバー、益子の陶芸家たちとこの支援活動をスタートさせました。仕組みは一般の募金(個人や協賛店)で器を購入し、それを私たちが直接被災地へ届けるというものです。一般の方々、お店、作家の協力により、お金は栃木、益子に循環させ、器を東北へという流れで双方を支援する形をとっています。器は生きる基本である**「食」に彩りを与え、復興に向けた毎日の生活の中で少しでも明るく元気になるような一助になってもらえたら**という想いでこの活動を行っています。

↓陶器市や協賛店でのフライヤー(現在)

手づくりの器を被災地へ届けよう!

一般/協賛店支援
募金/募金箱設置
手づくりの「器」は、生きる基本である「食」に彩りを与えます。そんな「器」で、復興に向けた毎日が少しでも明るく、元気になってもらえたら、という想いで活動しています。

作家による支援
食前提供(益子焼々)
栃木在住の東北出身の「**な**」、会社員による活動
(広報活動/募金活動推進/企画/写真制作)

支援金 **手づくり支援プロジェクト** **器購入**

被災地での配布 **陶器市イベント** **上代の3割での提供**

- B品/半端品などの無償提供
- 陶器市での募金推進協力

このまでの活動実績! **手づくりの器約1万4000個を届けて!**

- 2011年7月 山田町(4000個を届けて)
- 2011年12月 大槌町/釜石市(7000個を提供)
- 2012年7月 陸前高田(3000個を届ける。全売上を寄付)
- 2012年12月 気仙沼市(12000個を販売、全売上を寄付)
- 2013年6月 東松島市(11000個を販売、全売上を寄付)
- 2013年12月 石巻市(600個を販売、全売上を寄付)
- 2014年3月 石巻市(700個を販売、全売上を寄付)

◎協賛会「手づくり支援プロジェクト」で検索
<http://handmade-project.info.com>
〒985-0809 石巻市からはらちろー

◎支援金の口座 銀行振込
受取銀行：聖心会海部 (特) 3230334
口座名義：手づくり支援プロジェクト

活動の軌跡

2011
3月末 岩手出身の光原みちが友人の陶芸家ホソカワカオリ氏に本支援プロジェクトを相談、友人の約20名の作家の賛同を得てスタート
矢川士郎氏、矢川杏子(筆作家)氏も参加し、募金活動のノベルティグッズを考案



サバイバル用のホイッスルに「二度と使うことがないように」と願いをこめて、手づくりで革のカバーに器の焼印を一つ一つ入れ製作

4月
同郷の小向麻子氏も加わり、HP製作、法人口座開設
益子春の陶器市での協力作家への呼びかけ、募金開始



5月
協賛店への募金箱、グッズ設置協力依頼開始
提供場所検討開始、山田町役場と相談

6月
現地視察、自治体ボランティアセンターにて打合せ
27日、NHK「首都圏ネットワーク」で「いっとろっけん」で紹介される

7月
1日、NHK-FMで放送
21~24日第一回陶器市開催(岩手県 山田町)
22日、毎日新聞に掲載
29日、NHK「首都圏ネットワーク」で開催の様子を放送

8月
3日、NHK「おばんですいわて」岩手でも放送

11月
益子秋の陶器市開催、募金活動~器集め

12月
10日、第二回陶器市開催(岩手県 大槌町)

2012
3月 14日、下野新聞に掲載
4月 益子春の陶器市開催、募金活動~器集め
7月 **14~15日、第三回陶器市開催(岩手県 陸前高田市)**
15日、岩手日日新聞に掲載
17日、三陸経済新聞に掲載

11月
益子秋の陶器市開催、募金活動~器集め

12月
8日、第四回陶器市開催(宮城県 気仙沼市)
23日、下野新聞に掲載

手づくり支援プロジェクト(協力作家、協賛店など)

- 協力作家(名前順)

佐藤尚子	中村カレン	遠志良子	木崎あけみ
佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子
佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子
佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子
佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子
佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子
佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子
佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子
佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子
佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子
佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子
佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子
佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子
佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子
佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子
佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子
佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子
佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子
佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子
佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子	佐藤尚子
- 協賛店(募金箱/グッズ設置協力など)

Company	Food
ジョイム株式会社	dain demusha musha and coffee
Masa	パン屋 舟橋堂
ソフトバンク	ほんとおかし ナン
ソフトバンク	食i 8ND-HA
ソフトバンク	からっぴり大野
ソフトバンク	Tavoma Sakurai
ソフトバンク	糖菓屋
ソフトバンク	パン・クラフトフォ
ソフトバンク	Bist-erna Mell-Melo
ソフトバンク	TORATTORA da RHOBA
ソフトバンク	Candlers
ソフトバンク	らー餅 藤原家
ソフトバンク	葉の杜 那木
ソフトバンク	鮎川 幸太郎
ソフトバンク	PESCA-COCCA
ソフトバンク	salon kokoro
ソフトバンク	minori管理所
ソフトバンク	LipopCoco
ソフトバンク	hair Labo natura
ソフトバンク	Piccole Marks HAIR
ソフトバンク	seal hair work
ソフトバンク	ホイスリなどの革の店
ソフトバンク	オーダースタイル
ソフトバンク	アパレル
ソフトバンク	靴屋 つじ屋
ソフトバンク	レザー工房
ソフトバンク	井戸屋 フットコム
ソフトバンク	READY OR ORDER
ソフトバンク	石井製菓所
ソフトバンク	(協賛) 株式会社ワイパ

- 2013
3月 「ソトコト3月号」に掲載
4月 益子春の陶器市開催、募金活動~器集め
7日、下野新聞に掲載
6月 **7~9日、第五回陶器市開催(宮城県 東松島市)**
- 11月 益子秋の陶器市開催、募金活動~器集め
- 12月 **14~15日、第六回陶器市開催(宮城県 石巻市)**
- 2014
3月 **16日、第七回陶器市開催(宮城県 石巻市)**
7月 **26日、第八回陶器市開催(宮城県 南三陸町)**
- 2015
2月 **28日、第九回陶器市開催(宮城県 名取市)**
1日、毎日新聞に掲載
9月 **13日、第十回陶器市開催(宮城県 七ヶ浜町)**

巨理町について



七ヶ浜町は宮城県の南部沿岸に位置する、人口約3万3000の小さな町です。温暖な気候を活かした果樹、花卉などの栽培が盛んで、特に苺が特産となっています。また郷土料理として、はらこ飯やほっき飯なども有名です。東日本大震災では町の面積の約50%が浸水し、沿岸の集落は壊滅的な被害を受けています。

1. 被災状況(町公表データ 2015/11時点)

- **死亡者数 306人**
- 安否不明者数 6人
- **仮設住宅数 1126戸(9団地)**

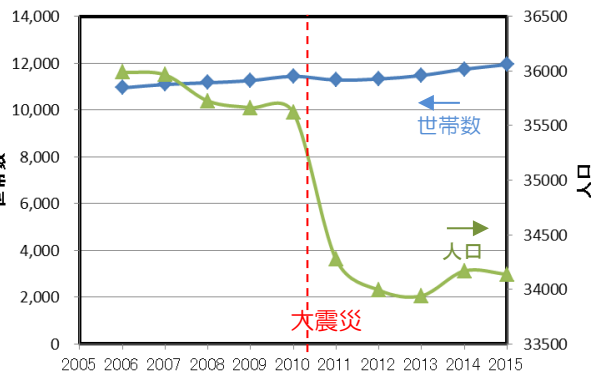
2. 被災棟数の内訳

全壊	半壊/大規模半壊	一部破損
2527棟	1210棟	2462棟

3. 世帯数、人口の変化

	世帯数	人口(人)
震災前(2010/12)	11437戸	35618
現在(2015/12)	11942戸	34139

世帯数は大きな変化は見られないが微増している。人口は一度2011年の震災以降大きく減少し、2014年に微増後、再び減少傾向。(グラフは各年12月のデータ)



4. 仮設住宅

9つの仮設住宅団地、ピーク時には計1126戸(3331名の方が居住)でしたが、現在は復興住宅が全て完成し、自宅の完成待ちなどの方を除きほとんどが引越しをされています。

5. 巨理町の被災の特徴

14時46分の地震で町内で震度6弱が観測され、15時52分に津波が到達しました。津波浸水高は12m以上とされています。巨理町も標高の低い平野部が多く、上記地区を中心に沿岸の集落に壊滅的な被害を受けました。



住宅被害額	1,303億円
公共施設被害額	186億9,112万8,000円
産業被害額	1,862億6,258万1,000円
被害額合計	3,352億5,370万9,000円



数字で見る亶理町の状況

災害公営住宅の着手状況(宮城県データ)

※H28.3.31時点

市町名	計画戸数	事業着手戸数		うち、工事着手戸数		うち、工事完了戸数	
		進捗率		進捗率		進捗率	
01 仙台市	3,179戸	3,179戸	100.0%	3,179戸	100.0%	3,129戸	98.4%
02 石巻市	4,500戸	3,643戸	81.0%	3,466戸	77.0%	2,438戸	54.2%
03 塩竈市	419戸	419戸	100.0%	390戸	93.1%	115戸	27.4%
04 気仙沼市	2,133戸	2,133戸	100.0%	1,814戸	85.0%	681戸	31.9%
05 名取市	716戸	618戸	86.3%	269戸	37.6%	92戸	12.8%
06 多賀城市	532戸	532戸	100.0%	532戸	100.0%	482戸	90.6%
07 岩沼市	210戸	210戸	100.0%	210戸	100.0%	210戸	100.0%
08 登米市	84戸	84戸	100.0%	84戸	100.0%	60戸	71.4%
09 栗原市	15戸	15戸	100.0%	15戸	100.0%	15戸	100.0%
10 東松島市	1,010戸	1,001戸	99.1%	831戸	82.3%	648戸	64.2%
11 大崎市	170戸	170戸	100.0%	170戸	100.0%	170戸	100.0%
12 亶理町	477戸	477戸	100.0%	477戸	100.0%	477戸	100.0%
13 山元町	490戸	490戸	100.0%	418戸	85.3%	402戸	82.0%
14 松島町	52戸	52戸	100.0%	52戸	100.0%	52戸	100.0%
15 七ヶ浜町	212戸	212戸	100.0%	212戸	100.0%	212戸	100.0%
16 利府町	25戸	25戸	100.0%	25戸	100.0%	25戸	100.0%
17 大郷町	3戸	3戸	100.0%	3戸	100.0%	3戸	100.0%
18 涌谷町	48戸	48戸	100.0%	48戸	100.0%	48戸	100.0%
19 美里町	40戸	40戸	100.0%	40戸	100.0%	40戸	100.0%
20 女川町	866戸	657戸	75.9%	457戸	52.8%	269戸	31.1%
21 南三陸町	738戸	738戸	100.0%	702戸	95.1%	244戸	33.1%
計	15,919戸	14,746戸	92.6%	13,394戸	84.1%	9,812戸	61.6%

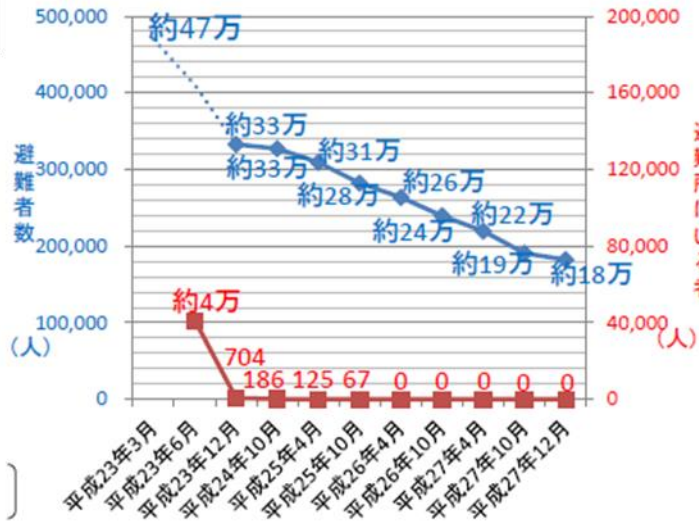
H28.3月末時点での県公表データでは亶理町の災害公営住宅は**全て完成**しています。しかし、石巻市や気仙沼市など比較的大きな市では計画戸数も非常に多く、進捗率が低い状況です。これらを鑑み、仮設住宅の5→6年の特定延長措置が取られています。宮城県は**平成29年度に全戸完成させる**目標になっています。

私たちが引き続き、この活動を上記完成と仮設住宅がなくなる日までを一つの目標として支援を継続してゆきたいと考えています。

数字で見る仮設住宅・避難者の状況(全国計：復興庁データ)

避難者の推移

	全体	避難所にいる者 (公民館・学校等)	住宅等にいる者 (公営・仮設・民間・病院含む)
発災3日目(*1) (平成23年3月14日)	約47万人		
平成24年4月1日目(*2)	約34万人	330人	約33万人
平成25年4月2日目(*2)	約31万人	125人	約29万人
平成26年4月3日目(*2)	約26万人	0人	約25万人
平成27年4月4日目(*2)	約22万人	0人	約20万人
最新値(*2) (平成27年12月)	約18万人	0人	約16万人



(*1 緊急災害対策本部 青森・岩手・宮城・福島・茨城・栃木の避難者の合計。
*2 復興庁調べ 全国の避難所(公民館・学校等)、旅館・ホテル、その他(親族・知人宅等)、住宅等(公営・仮設・民間・病院含む)にいる者の合計。

避難者数は発災直後の約47万人から、大きく減ってはいるものの、**H27.12月時でも未だ約18万人**と多くの方々が避難生活を送っていることがわかります。また、住まいの再建への動きが進んでおり、仮設住宅への入居戸数も約3万戸と減少しています。

仮設住宅などの入居状況

		26年4月	27年4月	27年11月(最新値)	備考
公営住宅等	入居者数	22,645人	16,565人	14,303人	全国計
	入居戸数	8,440戸	6,436戸	5,571戸	
民間住宅 (みなし仮設)	入居者数	117,715人	90,767人	74,972人	全国計
	入居戸数	48,790戸	38,863戸	32,579戸	
仮設住宅	入居者数	96,519人	78,787人	64,988人	岩手県・宮城県・福島県 ※茨城県・千葉県は平成26年度には仮設住宅(プレハブ)の供与を終了。
	入居戸数	43,898戸	37,398戸	31,295戸	

巨理町の災害公営住宅(全477戸 2016.3月現在)



大谷地住宅(3DK木造2階建)



西木倉住宅(2DK~3LDK RC5階建)

集合形式	政令月収 (円)	西木倉住宅 (円/月)			
		2DK	2LDK 3DK	3LDK	
家賃低減 対象世帯	0	5,000	6,000	6,500	
	1~40,000	16,200	19,400	21,200	
		8,400	10,100	11,000	
		16,200	19,400	21,200	
		11,800	14,200	15,500	
40,001~60,000	16,200	19,400	21,200		
本来の公営住宅 入居の対象	60,001~80,000	15,300	18,400	20,000	
	80,001~104,000	16,200	19,400	21,200	
		104,001~123,000	18,700	22,400	24,500
		123,001~139,000	21,400	25,700	28,000
		139,001~158,000	24,100	28,900	31,600
収入基準の 超過者	158,001~186,000	27,600	33,100	36,100	
	186,001~214,000	31,800	38,200	41,700	
	214,001~259,000	37,200	44,700	48,800	
	259,001~	42,900	51,500	56,200	

- ・家賃は、公営住宅法に基づき、一般の公営住宅と同様に、入居される方の収入、世帯構成、各公営住宅の規模、立地条件などにより決定
- ・家賃は、実収入ではなく「政令月収」により設定され、入居者の収入によって毎年見直し。
政令月収 = (世帯全員の年間所得の合計 - 控除額の合計) ÷ 12
- ・政令月収が8万円以下の世帯については、「東日本大震災特別家賃低減事業」により、建物の管理開始から**5年間は家賃が低減**。(6~10年目は段階的に家賃が引き上げられ、11年目以降は本来の家賃となる)
- ・引き続き3年以上入居し、政令月収が15.8万円を超えた世帯は、住宅の明け渡し努力義務が生じ、通常の家賃に割増賃料が加算。
- ・引き続き5年以上入居し、直近2年間で連続して政令月収が31.3万円を超えた世帯は高額所得者となり、住宅の明け渡しの対象になり民間賃貸住宅並みの家賃となる。

巨理町での陶器市開催

イベントなどの少ない被災地で実際の陶器市のように、好きなものを選び、少しでも楽しんでもらいたいということで、毎回チャリティー陶器市という形で開催しています。今回は巨理町の商工観光課が主催する「伊達なわたりまるごとフェア」のなかで、陶器市を開催しました。

巨理町町制施行60周年記念

伊達なわたり まるごとフェア

平成28年3月13日(日)
9時30分～14時30分
オープニングセレモニー 9時～

会場 巨理町中央工業団地仮設住宅駐車場

大試食会 新鮮度バツグン・美味しさ満点!!
春一番の旬な味～イチゴ～
●波の子貝のすまし汁… 副産物 600名
●大分県日出町支援米紅白餅の配布

復興支援募金 100円以上募金
●イキイキ花コーナー(鉢花)… 一冊目 先着 300名
二冊目 先着 200名

お楽しみ大抽選会 巨理町の地場産品などが当たる!!

展示・即売会等
地元商工業品・地場産品(イチゴなどの生鮮野菜&加工MeTe)
姉妹都市(北海道伊達市)・友好都市(大分県日出町)
山形県大江町、村山管内市町物産
近畿市町物産(新地町・山元町・岩瀬市・名取市・角田市)

ステージイベント チャリティーカラオケ大会
お楽しみに!!

巨理名物の海の幸・里の幸が盛りだくさん!

一冊目	先着 700名
二冊目	先着 700名
三冊目	先着 600名

●主催 巨理町・主催 伊達なわたりまるごとフェア実行委員会 ●協賛 巨理町商工観光課 ●協賛 伊達なわたりまるごとフェア実行委員会 電話 0231-340-0113 巨理町観光課

このイベントは年に1度開催される、巨理の豊かな農・水・商工業を一堂に集めたフェスティバルで、巨理町特産のイチゴの試食、魚介類や野菜・農産加工品・特産品などの即売されます。また、お楽しみ抽選会やライブなどの催しも行われ、多くの地元の方が参加する一大イベントになっています。

私たちは今回も県内外の多くの作家さんから提供いただいた器(約2500点)を全て現地へ運び、色とりどりの器で陶器市を開催することが出来ました。また今回は2012年に岩手県の陸前高田市での支援にもご協力いただいた、ポーセラーツ協会のインストラクターの方々、生徒さんのポーセラーツ作品(磁器)を全国から提供いただき、このイベントの中で地元の方々へ無償提供させていただきました。

手づくりの器は見て楽しめるだけでなく、実際に触れて使っていただくことで徐々に変化し、味が出てきます。復興へむけたこれからの長い道のりの中で、被災地の方々とともに毎日の食へのいろどりを与え続けられたらという想いを込めて、陶器市を開催しています。

↑イベントのポスター

メンバーの活動風景 3月12日(土) 出発



・AM9:00 器を保管していただいている宇都宮のレストランNORAさんに集合。これまで準備した器(約2500個)を梱包したコンテナを車へ積み込みます。今回は全国(北は北海道から南は九州まで)のポーセラーツ協会の方々からの器も届き、コンテナに移し替えて現地へ運びます。行程のブリーフィングを行い、出発しました。(今回は計6台の車、15名のメンバー)



・PM2:30 宇都宮から約250km、現地へ到着。会場は工業団地内の仮設住宅に囲まれた大きな駐車場です。仮設住宅が多く集まった団地でしたが、話を聞くと現在は新居などの完成を待つ14世帯を除き、ほぼ全ての方が復興住宅などへ移られていました。この日は事務局に挨拶をし、明日の開催に向けコンテナを配置、テーブルの設定など設営準備を行いました。

現地の様子

会場での下準備を終え、メンバーで宿に向かいました。今回は被災後に改装して営業を再開した海岸沿いの宿でしたが、周辺にはまだまだ被災後の手つかずのままの家屋や土地が残っていました。土曜日でしたがこちらでも休みなく工事は行われており、いろいろなところで重機が稼働していました。



・宿周辺の海岸線には新しく大きな堤防が出来ていました。写真は鳥の海(海岸沿いの汽水湖)と工事中で通ることが出来なくなったマリンレインボーブリッジ。約240mの橋の先には海浜の森公園があり、潮干狩りや豊かな自然を楽しむことが出来ました。



・海岸ちかくの住宅街では震災後に建てられた新しい住宅と、まだ津波で壊れたままの住宅がまばらに共存しながらいくつも残っていました。ガードレールなどもそのままのところがいくつかありました。

3月13日(日) 亶理町：伊達なわたりまるごとフェアでの陶器市開催

当日は快晴で、地元の名産物である苺や波の子貝のすまし汁の試食会、紅白餅の配布などが行われ、イベント開始前から多くの方々が集まりました。

開催の様子①



・朝7時半、会場でのテント設営を開始。器のコンテナを降ろし、総動員で準備を行ないました。コンテナから器を出し、梱包を解いてアイテムごとに並べます。天気は快晴で、絶好のイベント日和となりました。



・試食会には開催前から長蛇の列ができていました。我々のディスプレイもほぼ終了、今回も約90名もの作家さんの素敵な作品たちが並びました。主催者と出店者で開催前の打合せを行い、9時半からイベントが始まりました。



・開始直後から多くの方がいらしてくれました。ポーセラーツの作品はチャリティー陶器市でお買い上げいただいた方々へ、無償で提供いたしました。陶器とはまた違った華やかさで、とても喜んでいただきました。



・多くの地元の方が訪れ、復興住宅での食器や花器などを購入してゆきました。引っ越しが進んでいるためか、揃いの茶碗や湯呑などセットで欲しいという方や、おちょこや変わり種の器たちのニーズも以前に比べてとても多く感じました。



・復興住宅に家族を呼び戻してみんなで住むので、というような声も聞かれ、だいぶ普通の生活環境になってきたことをしみじみ感じました。2時半にイベントは終了、総動員で梱包、テーブルなど什器の片づけを行いました。

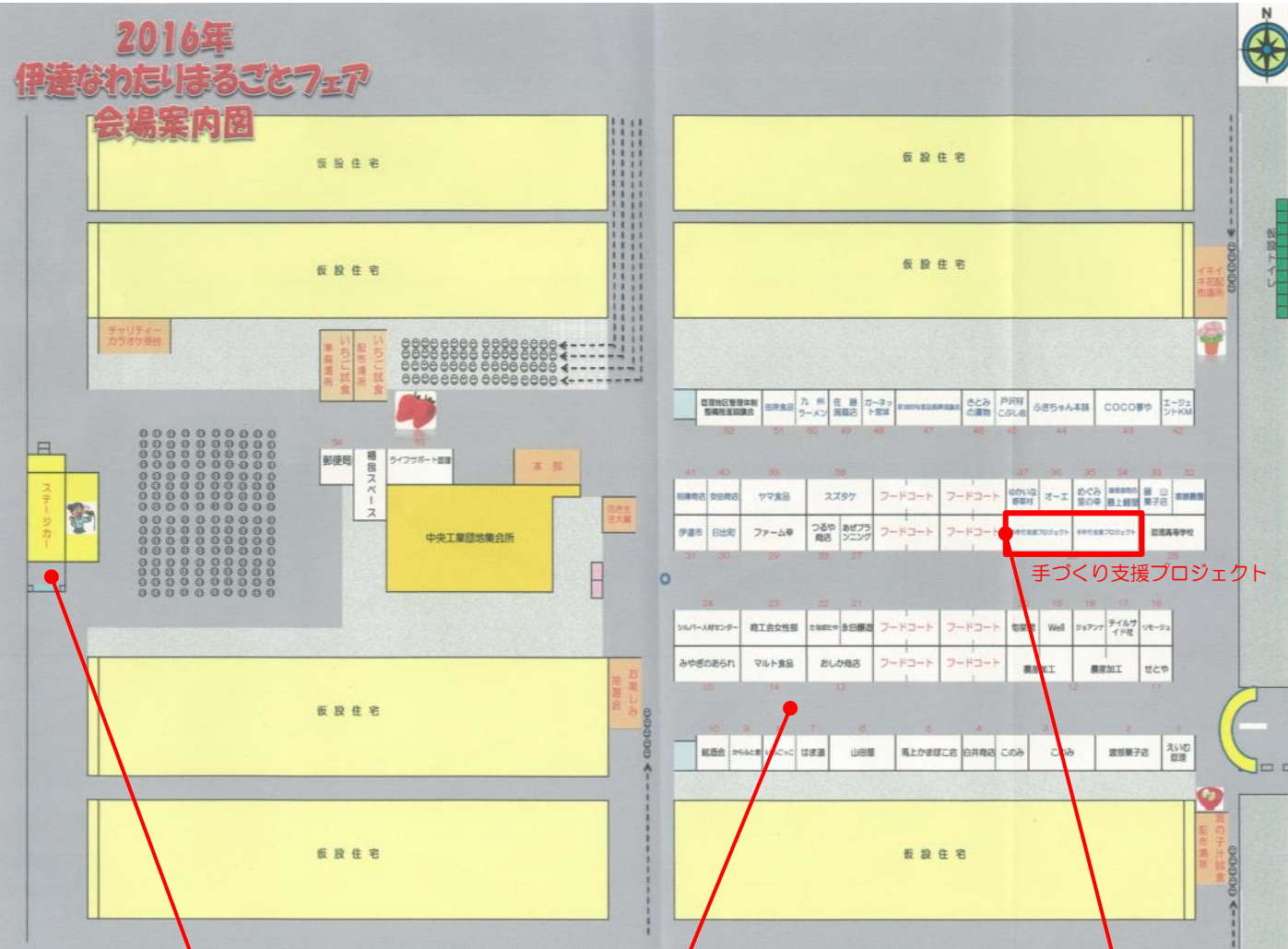


・器を入れたコンテナを車に積み込み、テントを片づけます。事務局に挨拶をし、午後4時、集合写真を撮って現地のミッション終了です。日曜日のイベントだったので、次の日からの仕事に備えて直ちに帰路につきました。

今回もチャリティー陶器市に多くの地元の方がいらして下さいました。揃えの食器や装飾品としての花器や陶器の小物も人気があり、だいぶ生活に余裕が出てきたことを実感でき、とても嬉しく感じました。会場も大きな仮設住宅団地の駐車場でしたが、現在住まわれている方は14世帯のみということで、ほとんどの方々が復興住宅や新しい住居に引っ越されたという話を伺いました。現在の仮設住宅住居戸数は約3万戸ですが、災害公営住宅の建設もだいぶ進み、仮設住宅が無くなる日がそれほど遠くないことを強く実感できました。

イベントレイアウト

仮設住宅に囲まれた広場でこのイベントは行われました。周囲には大きな駐車スペースがあり、毎年このイベントには地元、近隣の方方で約2万人が来場する大きなイベントになっています。地元の蒲鉾、味噌、酒、苳、漬物、菓子など多くのお店や我々のような県外からの支援団体が参加しています。



開催の様子②



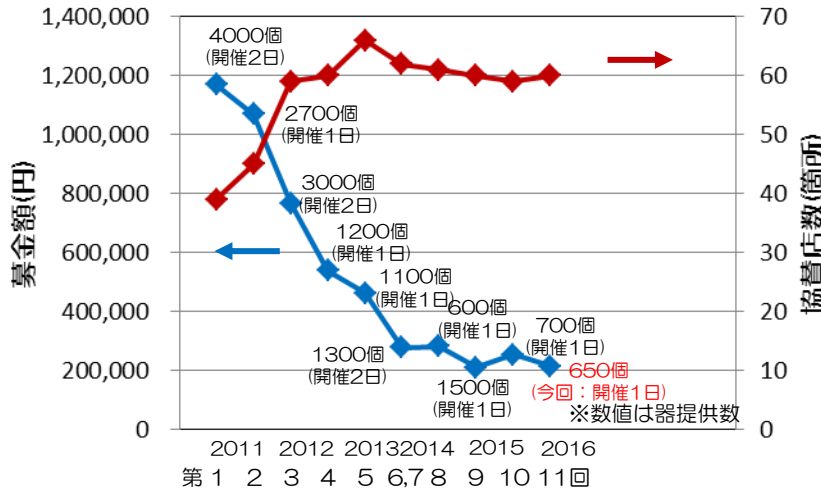
・ステージでは亘理町長のあいさつ、歌のライブイベントなどが行われました。ほっき貝の浜焼きやほっき飯、地元の蒲鉾屋さんのつみれ汁、地元の高校が製作した食品なども販売され、中央のフードコートもとても賑わっていました。

今回もチャリティー陶器市に多くの地元の方がいらして下さいました。新しいところで使う器が買えてよかった、また是非来て欲しいと言った声がかつても聞かれました。亘理町では現時点で、災害復興住宅は全て完成していますが、仮設住宅からの引っ越しに伴い、やはり器のニーズが大きくなっていることを確認できました。

震災からまる5年、様々な変化について

この5年間で東北の被災地に約17000個(無償やチャリティー販売)の器を提供し、売上(計220万円)を全て寄付してきました。それらは仮設住宅や復興住宅、店舗など様々なところで使っていただき、喜んでいただいています。陶器市や協賛店での募金額の減少もありますが、作家さんの協力のもと、無償提供いただく器の割合も増えて、毎回約2500~3000個の器を準備し現地へ持ってゆることができています。

巨野町では計画の災害公営住宅は全て完成しているため、陶器市では新しい住居で用いる器のニーズが多く聞かれました。新しく家族を呼び戻しての生活、収納スペースも仮設時と比べ格段と増え、家族人数分の揃えの器が欲しいという声、求める器の種類も長皿や小、中鉢など、これまで以上に多様なニーズが増えてきています。また、これまでニーズが落ちていた、茶碗や湯呑を買い求める方々が多かったのが非常に新鮮でした。新しい生活を送るうえで新規に揃えたいという心境の方々が多かったのかもしれません。今後もこれらの現地の声をもとに、これから増えてゆく復興住宅でのニーズに応えてゆけるように準備をしてゆきたいと思います。



手づくり支援プロジェクト募金額と協賛店数推移

募金に関してはこれまで同様に減少方向ですが、あらたな募金促進グッズの製作やさまざまなイベント活動を行い、維持してゆこうと考えています。あらたなグッズとしては革のキーホルダー、カードケースやペンケースなど(写真)を製作しています。また、これまでの支援活動を報告するPRイベントでの物産販売、岩手などの県人会での活動PRなども継続的に行っています。協賛店では新たな価値と募金しやすい値段設定などにより、好評を得ています。1店舗当たりの募金額が減少しても、より多くの方々が協力してくださることで、大きな力になっています。引き続きお力添えをいただけましたら幸いです。

メンバーによる手づくりの募金促進グッズ



本革製のマウスパッド



本革製のコースター



本革キーホルダー



サンキャッチャー



手彫りハンコの絵葉書



鯨バッジ
(協力作家さんによる作品)



いろいろな革小物

第11回手づくり支援プロジェクトまとめ 収支

収支報告

- ・準備(無償/購入)器数 : 約2500点 (うち提供数: 650個)
- ・協力作家数 : 約100名 (HPへの非記載分含む) + ポーセラーツでの協力作家、生徒さん
- ・協賛店数 : 60箇所 (2016/3時点)
※協賛店: 当支援の趣旨に賛同いただき、募金箱やメンバーの募金促進グッズの設置協力をいただいているお店、募金促進グッズ用の革、器などをご提供いただいているお店など

収入(募金分+繰越分)

- ・合計(3/11時点) : 213,923円 (244,898円)
- 募金額内訳
 - 個人 : 99,322円 (うち振込み82,322円)
 - 協賛店 : 114,601円 (陶器市やイベントでの募金含む)
 - 繰越金(第10回) : 30,975円

支出(器購入費、グッズ材などその他経費)

- ・合計 : 219,756円
- 内訳
 - 作家への支払い : 58,980円
 - グッズ製作費/募金推進用材料費 (ボード/募金箱、報告書印刷費、郵送費、器着払送料など) : 160,776円

25,142円(第12回へ繰越)

チャリティー陶器市での収入(商店街での器販売分)

- ・合計 : 158,400円

売上は全額(158,400円)を、亶理市へ寄付し、今後の復興に使っていただくこととしました。亶理町からは後日、謝辞とともに今後もまたぜひ開催していただきたいとコメントをいただきました。

- ・その他 (宿泊費@8名 計43,092円 : 全てメンバー自費
また、現地移動費の一部を本田技研工業株式会社より援助いただきました)

今回は亶理町の方々のたくさんの笑顔を見ることができました。プロジェクトの支援メンバー、作家さん、協賛店の方々、支援金をいただいた多くの方々のおかげで第11回の東北支援活動が達成できたことを心より感謝しています。震災から5年、時間の経過とともに支援の熱が冷めてゆく中、協賛店や作家、メンバーの広がりや各地からの支援の輪が繋がり、これまで同様に継続、開催することができました。(今回も多くの作家さんから無償提供のご支援をいただきました。)

この活動を続けてきて様々な現地の現状、人々の感情の変化などを見てきました。仮設住宅の居住期間の延長措置とともに、復興住宅への引越しも進んでいます。また再起した地元商店などの物産販売の全国ネット展開や新たな付加価値を付けた商品開発など、以前では想像もしなかったであろう大きな変化も生まれています。震災があったからこそその新しい挑戦がたくさん生まれていて、明るい兆しも実感として感じています。東北のひとびとの持ち味である、決してあきらめない心と日本の多くの秀逸な技術力が合わさって危機をチャンスへと活かす動きが広がっていると思います。

私たちもこれからさらに増えてゆく災害公営住宅の完成に向け、器のサイズや種類など、変わってきた地元の方々のニーズに合わせて、どのような支援のかたちがいいのか、継続の仕方を含め試行錯誤をしてゆこうと思っています。小さなプロジェクトですが、メンバー丸力を合わせて継続してゆきますので、今後ともどうぞ変わらぬお力添えのほど、宜しくお願いいたします。

第11回手づくり支援プロジェクト参加メンバー



・第11回お届けメンバー

吉田弘道	齊藤有紀/昴成	松森裕史	加藤航一
豊田将平	浦田健太	山脇琢磨	小竹智仁
木村世傑	川又和子	久木田日夏	久木田紀美/陽樹/明琳

・協力作家(名前の順)

相澤かなえ	笠原良子	斎藤圭	中村かりん	Masa
阿久津雅士	梶山友里	坂本光永	成田真澄	増渕葉子
岩見晋介	勝村顕飛	坂本雅子	能登美登利	増永典子
池上暁生	加藤博史	佐藤敬	野水美里	松下曜子
伊佐名美子	加藤弓	茂野俊也	長谷川奈美	松下忠生
石嶋哲彦	加藤喜道	清水秀輝	蓮見かおり	松本歳郎
いちかわ清美	川崎萌	荘司武臣	原泰弘	豆腐なる美
伊藤ヨリ	川島郁朗	菅谷太良	樋口早苗	三戸綾乃
大塚温子	上條富子	薄田いと	平泉志津子	溝口丈
大津広子	川又和子	ヅェル・I-ブガール	平松龍馬	宮島将實
奥住久雄	岸タカコ	関口洋平	福地綾子	棟方美峰
小野悦子	北川チカ	関口まきこ	福田惣一	もときみちこ
おぬきなつ	木村世傑	関川佳古	福山龍之介	
岡本芳久	国友武志		藤田安雄	吉澤奈保子
岡本有希子	桑川通治	瀧昭典	藤井美香	アソケイ
岡田直恵	倉前幸徳	長豊陶苑	杵川かり	若菜綾子
岡部耕太郎	栗原節夫	豊田雅代	堀水小夜	渡辺キ工
おとがわさとこ	桑原純	陶遊舎谷口	堀水達雄	渡辺六郎
尾関翼郎	後藤義国	戸塚佳奈		渡辺克典
	近藤康弘			その他多数

・協力作家(ポーセラーツ)

全国(北海道、関東、九州など14か所)の教室/インストラクター、生徒の方々より、多数の作品のご支援をいただきました。

・支援してくださった多くの方々

協賛店(次項)の方々、メンバーゆかりの多くの皆さま、職場の皆さま、報道関係の皆さま、本田技研工業株式会社

• 協賛店(募金箱/グッズ設置協力)

Company

ショイコム株式会社
ソフトバンク インターパーク宇都宮
ソフトバンク宇都宮東
ソフトバンク鹿沼
ソフトバンク古河
ソフトバンク真岡
ソフトバンクヨークタウン大平

パインズ日光ゴルフ倶楽部

株式会社つかもと
作家館 つかもとギャラリー
つかもと記念館
株式会社 日本ヴォーグ社
国際医療福祉大学病院
EX-サービス株式会社

Cafe & Gallery

GALLERY IN THE BLUE
Cafe R hana
QupuQupu
Café KENZOSUN
益古時計
GALLERY TAS TAS
CAFE CENTRO
作坊 吃(ゾーフアンチャー
イチトニブンノイチ
ミハシカフェ

Select Shop

ハナムグリ
GOURD+m
うつわ坂
アートショップ向井
相玄窯の店 木洩れ日
仁平古家具店
益子 第二倉庫
釉日
陶のね

Beauty

PESCA-COCCA
Handmade soap SQUAMISH
salon kyoko
minoriori美容所
UppityCovo
hair Labo natura
Ripple Marks HAIR
seal hair work

Education

バナナキッズ (英会話教室)
雀宮校、戸祭校

Stay & Culture

二期倶楽部 アートビオトープ那須
NAO テニスクラブ

Food

pain de musha musha and coffee
パン茶房 小梅堂
ぱんとおかし ノアン
食工房NO-RA
とらっとりあ天野
Taverna Sakurai
銀座園
サン・クリストフォロ
Bis-t-eria Meli-Melo
TORATTORIA da RIOBA
鮎暁
Conifers
らー麺 藤原家

ホイッスル用の革を提供していただいています。
Special thanks!

オーダーメイド靴
銀座てつじ屋

レザークラフト
井戸辰ドットコム
READY OR ORDER
石井裁断所
(株)廣瀬

ハンドバッグとトータルファッショングッズ
株式会社クイーポ

第12回手づくり支援プロジェクトについて

第12回はようやく福島県に支援の場を移してゆく予定です。福島県では原発の影響により、これまでの岩手、宮城の沿岸部とは状況が異なり、多くの仮設住宅が内陸部に位置しています。まずは仮設住宅の最も多く集中する二本松市や相馬市などを考えていますが、自治体のニーズやイベントのタイミングなどと調整しながら検討を進めてゆく予定です。

また、今回熊本県で起きた地震の被災地へも時機を見て支援(寄付や食器の送付)を行いたいと考えています。



開催情報は詳細が決まり次第、手づくり支援プロジェクトのHPにアップいたします。
引き続きみなさまのご支援、お力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

◎お問合せ「手づくり支援プロジェクト」で検索

<http://handmade-project.iimdo.com/>

◎支援金の口座 / 銀行振込

足利銀行：駅東口出張所 (普) 3230334

口座名義 手づくり支援プロジェクト



※携帯からはこちら

手づくり支援

作家さんと第11回お届けメンバーの写真



手づくり支援プロジェクト
<http://handmade-project.jimdo.com/>

手づくり支援プロジェクト
手づくりの器を直接被災地へ届けよう

